平成27年度　学校評価総括表　　伊丹市立有岡小学校

教育目標	心身ともに　たくましく　すこやかに　生きる子を育む
重点目標	・たくましく健やかに生きる子の育成　・確かな学力の育成　・子ども理解に基づく教育の推進　・家庭や地域から信頼される有岡ならではの教育の創造

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と,授業改善	・基礎的,基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。	・国語の読解プリントを朝のチャレンジタイムに週3回実施する。 ・校内研修として,学年別に生活科・理科の授業を公開する。講師の先生に指導助言を受け,研究を深める。 ・校内ミニ研修を実施し,授業力の向上に役立てる。 ・4,5,6年の算数で,新学習システムを実施する。 ・算数では、授業の初めに各学年音読計算を取り入れ、計算力の向上に役立てる。 ・中、高学年を中心に,1週間程度,夏休みに学習会(サマースクール)を行う。 ・PTAの学力委員会と連携し,　放課後,児童の学びの場や土曜学習を推進する。 ・学力向上プランを作成する。	・年度末の読解力テストの正答率が80%以上になるようにする。 ・年間を通じて,事前研究会,事後研究会をそれぞれ6回実施する。 ・授業研究会とは別に、年間3回校内ミニ研修会を実施する。 ・算数の少人数指導を実施し,算数の学力を向上させる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい」と回答した割合が90%以上になる。 ・児童生徒アンケートにおいて,「先生は,教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が90%以上になる。 ・水曜広場を月1回以上開催する。土曜学習を月に1回以上開催する。	A	・成果として、年度末の読解力テストの正答率がほぼ80%以上に達した。読解力向上のチャレンジタイムは、PDCAサイクルで取り組んだ。 ・年間を通じて,事前研究会を6回,事後研究会を6回実施し、生活科・理科の研究を深めていった。授業力の向上と授業改善に一定の成果が見られた。 ・授業研究会とは、別に校内ミニ研修会や自主研修会を実施した。各種研修会について職員の97%が授業に生かせていると評価した。 ・算数の少人数指導を実施し、きめこまやかな指導ができた結果、算数の学力を向上させた。 ・成果として、児童アンケート結果から「授業はわかりやすい」と回答した割合が96%で、目標を達成している。また「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合も、97%で、目標を達成している。 ・保護者も先生はわかりやすい授業に務めていると98%が評価している。 ・算数の音読計算は効果はあるが、実施にはばらつきがある。	・引き続き、週3回朝のチャレンジタイムに読解プリントや視写プリント実施していくことで、各教科の基礎学力となる読解力を高める。 ・校内ミニ研修会の実施については、会議等の時間短縮や会議の精選等で実施する時間を確保し回数を増やしていく。 ・算数の少人数指導の改善策としては、引き続き具体物を使って、理解を深め、問題の練習量を増やして、学習理解の定着や抽象的な思考力の向上を図る。また、3・4年の中学年の算数の基礎的な内容を着実に理解させることで、高学年につなげていく。 ・本校の研究全般にわたって、学校全体で協力しあう姿勢を維持し、研究意識を高める。 ・水曜広場や土曜学習の回数を増加や内容の充実を図る。 ・学力向上プランの具体化し、子どもの実態に沿って学力向上を図る。 ・算数の音読計算を全クラスで実施していく。	・保護者アンケートで、先生の授業はわかりやすいと評価している割合が98%で、学習面で力を付けていると評価した割合も98%で、先生方や学校が一生懸命取り組んでおられるのがよく分かる。
	思考力,判断力,表現力の育成	・思考力,判断力,表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の向上を図る。	・業間休みや夏休み等も図書室を開放したり,各学年・クラスの常備図書を増やしたりする等,図書環境を充実させる。 ・理科で学ぶ問題解決的な学習を他教科にも広げていく。（自分の考えを持つための問題解決学習のあり方） ・各教科で言語力を高めるために,記述・説明する活動を充実させる。 ・ノートや学習カードの活用。 ・学力向上プランの作成。 ・教育のユニバーサルデザイン化を図る。	・読書カードに読書した書名を記入させ,読書を推進する。 ・1ケ月の読書目標数を11冊を達成する。 ・実験前に予想・仮説を立てさせ,観察・実験の,結果を整理し,考察する活動を大切にする。（ノートや学習カードの活用） ・各教科で言語活動を学習活動に取り入れる。	B	・成果として、1ケ月の読書目標数11冊は達成できた。（図書の時間の2冊×4週＋学級や家庭学習での読書数）校内で取り組んでいる読書マラソンや読み聞かせやボランティア等の活用によって、成果が上がっていた。 ・教科での体験活動を、多様な方法で表現させることで、気づきの質を高めて表現力が育つよう取り組んだ。 ・理科では自分の考えを持つために、問題解決学習を重視して取り組んできた結果、進んで課題解決の方法を自分で考えたり、意欲的に学んだりする姿が見られるようになってきた。職員の学校評価アンケートからも、「研究・研修が授業に生かせている」と回答した割合が97%になった。 ・観察・記録、整理・考察、説明、意思決定等の言語活動を各教科に取り入れていくことができた。 ・授業においてユニバーサルデザイン化を進めた。	・図書の課題と改善策は、中学年から読み応えのある本を読んでいる児童が増えてきているため、児童の読書目標の成果を単に冊数だけでは、はかれないので、他の項目で成果をはかる工夫を協議検討していく。 ・思考力・判断力・表現力を育てるために、各教科の学習内容で、具体的な指導計画をしっかりと立案して授業に臨む。学習時間の中で、思考したり、表現したりする時間の十分な確保を行う。 ・学力向上プランを具体化していく。 ・朝学習に読書タイムを取り入れていく。	・読書時間をもう少し増やして欲しい。例えば朝学習の時間などを活用できないか。 ・図書委員会の児童の活動が素晴らしい。 ・有岡学習プランを進めて欲しい。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・対話型の授業の実践(ペア・グループ・全体)を行う。 ・各教科で電子黒板や実物投影機等を活用して学習意欲を向上させ、学習内容の習熟度を高める。	・低学年30分、中学年60分、高学年90分の家庭学習の目標時間を達成する。 ・ICTを月60回以上活用する。 ・予習復習の習慣をつける。	B	・成果として、ICTの活用が月平均100回以上活用できた。 ・対話型の授業を行うことで、子ども一人一人が自己の考えを述べる機会が増え互いに理解を深め合うことができ、学習意欲につながっていった。 ・保護者と連携し、家庭で、繰り返し反復させたことで、教科の基礎的な内容の理解が定着し、できる・わかるが次なる意欲につながっている。 ・家庭での学習時間は、子どもにより個人差が大きく、改善が必要である。 ・家庭での読書時間を確保する。	・授業の中での効果的なICTの活用法を、職員間で研修することで、活用へのさらなる意識を高める。さらに、多くの職員が活用できるようにしていくための研修を行う。 ・児童の家庭学習や読書に対し、その都度評価し、賞賛することで、意欲の持続化につなげる。・アイパッド等機器の活用を行う。・アクティブラーニングに取り組んでいく。 ・家庭学習プリント配信システムの利用を図る。	・家庭学習の時間を高学年で90分以上行っている児童の割合が少ない。どのように取り組ませていくか。 ・予習、復習、自主学習の出来る児童、習慣化を進めて欲しい。 ・学年で話し合い、もう少し宿題を増やしてみてはどうか。・見通しを持った宿題の出し方。

豊かな心・健やかな体	不登校への対応	・不登校児童数を減少させる。 ・命を大切にする児童を育てる。	・欠席がちな児童には,家庭訪問を行うとともに,保健室登校等児童の負担にならないような登校を選択していく。 ・毎月生徒指導研修会(いじめ等)を持つ。 ・全ての教育で命の教育を推進する。 ・毎月の職員会で各クラスの子どもについての報告を行い、共通理解を図る	・毎月1回スクールカウンセラーと全職員で生徒指導研修会を持つ。 ・不登校児童数が0人になる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。	B	・児童生徒アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が95%になり、目標を上回った。 ・問題行動報告会は、月1回スクールカウンセラーを交えて、職員会議前に行い、共通理解した。 ・生活指導部会を毎月行った。	・引き続き、欠席がちな児童には、家庭訪問や電話連絡等で保護者対応を密にしたり、職員間で情報を共有化したりして、複数の職員で対応していく学校ぐるみの組織的な協力体制をさらに構築する。また、関係機関と連携を行う。 ・有岡小学校いじめ防止等のための基本方針に基づいて、組織として取り組んでいく。 ・保護者がより学校への相談がし や	・保護者との連携、信頼関係が大切。 ・昔のように地域の人の励ましも必要である。 ・学年の発達段階を考えて取り組んで欲しい。
	体力の向上	・自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。	・冬場の縄跳び運動や,外遊びを奨励したりする。 ・冒険教育やボール投げ、サーキットトレーニング、持久走を可能な範囲で体育の時間に取り入れる。 ・スポーツの楽しさを体感させる。 ・放課後運動場を開放し 体力向上をめざす。 ・スポーツ21等地域の体育的行事に参加するよう呼びかける。 ・昼の休み時間を5分間延ばし遊びを充実させる。 ・体力アッププランを作成する。 ・各クラスにドッジボールやスポンジボールを配布する。	・冒険教育を月200回目標を達成する。 ・スポーツテストの伊丹市の目標指数101をめざす。 ・年間を通じて,児童主催の委員会を中心に全校ドッジボール大会等を入れる。 ・体育の時間に5分間走を取り入れる。 ・体力アッププランの実施	C	・冒険教育を体育の準備運動や体育のカリキュラムに組み入れることで、月平均465回、目標を達成。 ・児童主催の委員会を中心に、しっぽ取り大会やドッジビー大会を行ったりして、スポーツの楽しさや体力の向上につなげていった。 ・体育のがんばりカードを活用した結果、自ら休み時間にも運動する児童がみられた。 ・運動場開放を第1、3、5土曜日に実施した。 ・昼休みの延長は良かった。・各クラスに配布されたボールを使ってよく遊んでいた。 ・体力アッププランを共通理解し、実施していく。	・冒険教育やサーキットトレイニング、持久走等のさらなるプログラム開発することで、児童にとって楽しく、魅力あるものにし、目標を持って自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てていく。 ・児童主催の委員会で、楽しんで体を動かす活動を組み込んでいく。 ・今後、体力向上についてのプロジェクトチームを組み、体力向上プランを考えるなど、学校全体で取り組む。	・地道に少しでも体力の向上が図れるように進めて欲しい。 ・朝のチャレンジタイムのように、時間を決めてやらして欲しい。 ・やり続ければ出きる。 ・体力アップに集中して欲しい。 ・冬のマラソンなど持久力アップの運動もいいのでは。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・学校便り、ホームページ等学校情報発信する。 ・授業公開や参観日、オープンスクール等を行う。	・学校だよりを月1回以上発行し 学校情報を保護者に発信する。 ・,学校ホームページを月1回以上更新し,学校情報を発信する。 ・学校評価を学校改善に活かす。 ・有岡小学校区まちづくり協議会、すこやかネットに参加する。 ・あいさつ、言葉づかい、服装、時間を守ることなどのマナーや生活のきまりを、地域や保護者とともに取り組む。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを月1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が90%以上となる。 ・PTAと連携し,水曜広場や土曜学習を月1回以上開催する。	B	・学校便りを月1回以上発行した。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が100%になり、目標を上回った。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した割合が99%になり、目標を上回った。 ・PTAとの連携は、放課後学習を水曜日に月1回行った。土曜学習も月1回行った。 ・自校のホームページは新システム移行後は2日に1回更新できた。 ・地域や保護者等の各機関の協力を得て、様々な生活のきまり等に対し、組織的な指導ができた。	・学校便りに詳しく月の行事を載せていく。 ・自校のホームページを定期的に更新するために、児童の活動の様子をその都度記録し、保存しておく。 ・教職員や地域の人等が共通認識のもとに一貫した指導を行うことができるように協議検討していく。 ・学校だよりに月の行事等をさらに詳しく載せ、教育活動内容を詳しく保護者に発信していく。 ・学校評価を学校評議員会議で再確認し、実践していく。 ・今後もPTAと連携し水曜広場や土曜学習をさらに進めていく。 ・地域の人材の積極的活用を図る。 ・スポーツ21への参加を呼びかける。	・地域には年配の方が多く、配布する学校便りが読みづらいので、次年度よりB4版に変更して拡大して欲しい。 ・ホームページの更新は素晴らしい。ご苦労様です。 ・保護者のアンケート結果からも伺えました。
幼・小・中連携	校種間の交流	・校種間の連携を深め情報交換等を行う。	・幼・小の給食交流・行事交流・遊び交流 ・幼少連携委員会・PTA学力向上委員会との連携 ・小中連携委員会・中学校夏季合同研修 ・各校種間の出前授業の実施 ・校内研修会への幼稚園教諭の参加	・幼小連絡委員会を月1回開催する。 ・学期に1回中学校と話し合いを持つ。 ・ありおか幼稚園には,学期に1回以上出前授業を行う。 ・中学校の出前授業を年1回行う。 ・幼小各校園の研究会に参加する。 ・幼小連携から接続へ	A	・幼小中の連携は、連携担当を中心に、研修を行い、出前授業等良く取り組めた。中学校とは随時話し合い、幼稚園とは、毎月委員会を持ち、研究会にも積極的に参加した。 ・中学校は、北と南に分かれており、同じようにするには連携が難しかった。	・幼小中の話し合い時間を確保し、お互いの研究の中にも位置づけていく。特に幼稚園は、同じ敷地内という環境をさらに生かして接続をさらに深めていく。 ・中学校は、北と南に分かれており、連携がスムーズになるように調整していく。 ・研究内容に幼小接続を位置づけ	・連携は今後校区内の保育所や私学の幼稚園とも広げて行けたらいいですね。同じ敷地内に幼稚園と小学校があるメリットをさらにいかして欲しい。

学校関係者評価総括

・学校関係者の皆様方からは、学校が一生懸命子どもたちのために取り組み効果を上げているという、全体的に概ね高い評価をいただいた。その中で今後の課題として、いじめ対策を引き続きしっかり行って欲しいこと。まずは、未然防止。もしあれば、認知が大切。そして子どもたちが、いじめられていると言えることが大切であること。

・運動面では、体力アップを分析し、少しずつ続けて、アップしていくことが大切であること。を指摘していただいた。

次年度に向けた重点的な改善点

・学校関係者の皆様方から肯定的評価をいただき、感謝の気持ちと、さらに課題に対し真摯に取りまなければと言う責任感でいっぱいである。今後学力、体力、豊かな心(いじめのない)等、バランス良く子どもたちが成長していけるようプランを立て、また安心安全に生活できるよう、保護者、地域、関係機関と連携しながら取り組んで行く。そして、情報を発信するために、ホームページや学校便り等の充実を図りをさらに、見やすく、わかりやすくするなど工夫して取り組んで行く。

自己評価の基準　A:目標を上回った　B:目標どおりに達成できた　C:目標をやや下回った　D:目標を大きく下回った